

# 鹿児島東西道路シールドトンネル技術検討委員会（第1回）

## 議事要旨

令和3年12月24日

### 【議題】

- ・路面下空洞調査手法について
- ・支障杭切削における地盤改良について

### 【議事要旨】

- 路面下空洞調査の調査手法について以下を確認した。
  - ・掘進前における地中内部を把握する目的として微動アレイ調査を実施すること。
  - ・調査範囲について土被りが少ない市街地部、宅地部の延長約1kmを行うこと。
- その他、シールド工事との因果関係を確認するため事業者として計測、確認すべき事項として以下の項目について提案がなされた。
  - ・地盤高計測及びモニタリングを実施すること。
  - ・地盤高の過去データについても確認すること。
  - ・地質調査間隔が広い箇所において追加調査を行うこと。
  - ・武岡トンネル、新武岡トンネルの地質調査データ並びに施工時の地質状況について確認すること。
  - ・既設構造物に対しては図面等の確認とともに必要に応じて施工者のヒアリング等を行い不確定要素がある場合は試掘を行うこと。
  - ・架空線、地下埋設物については占用企業者に確認し、関係者との情報共有を行うこと。
  - ・地下水位モニタリング調査については継続して実施すること。
  - ・上記については、調査結果を委員会へ報告すること。
- 支障杭切削における地盤改良について以下を確認した。
  - ・東雲川調整池について
    - 掘進に伴う支障杭の大割れ防止のため地盤改良を実施すること。
    - 調整池擁壁基礎として底版部の地盤改良を実施すること。
  - ・曙陸橋側道橋について
    - 現地状況を踏まえ支障となる基礎杭撤去が妥当である。
    - 基礎杭撤去跡は地山相当を有する材料で密実に充填する必要があることから流動化処理土またはシラスモルタルにて埋め戻しを行うこと。
- その他、東雲川調整池について確認すべき事項として以下の提案がなされた。
  - ・試掘による既設杭位置確認及び地質状況を把握の上、地盤改良を行うこと。
  - ・擁壁底盤部地盤改良施工においては施工管理をしっかりと行うこと。
  - ・残置となる杭からシールドトンネルセグメントへ荷重伝達が懸念される為、設計には留意すること。

以上